

ねらい

5歳児:小学校や保育園の友達と一緒に遊ぶことを楽しみ、親しみをを感じる。
1年生:秋を感じながら幼稚園や保育園の友達と一緒に遊び、親しみをを感じる。

本時のポイント

- ・年間を通して交流を積み重ねている。京都御苑での1回目の交流は同じ場所で遊んだが、今回は少人数のグループをつくって一緒に遊ぶ交流をすることにした。遊びは、グループで相談して決めることにした。
- ・グループは、初めて出会っても安心して交流できるように、1年生のクラスの班と5歳児の仲良しの友達2人でつくることにした。
- ・交流は、複数の候補場所を幼保小の先生と一緒に下見して、程よい広さで枯葉やどんぐりなどの秋の自然がたくさんある場所を選定した。

実践内容

各グループでそれぞれにどんぐり探しや「だるまさんが転んだ」など遊んでいた。この事例は、みんなで相談しながら遊びを進めた、あるグループのものである。

①



隣のグループみたいに
枯葉を集めて山をつくろう！

②



枯葉の山をジャンプしたら
おもしろいよ！

③



ほんまや！楽しい！
みんなで一緒に跳ぼうよ！

④



山をもっと高くした方が
おもしろいよ！

⑤



山が2つの方がもっとおもしろいから、もう1つつくって、
みんなで順番に跳ぼう！

このように、このグループの子ども達は、隣のグループの遊びに刺激を受け、みんなで相談しながら自分たちで遊びをより楽しいものへとつくっていった。

交流を振り返って

- ・4月から小学校、幼稚園・保育園それぞれで関係性を築き、安心して一緒に過ごすようになってきたからこそ、初めて一緒に遊ぶ友達がいるグループであっても、新たな関係性の中でも安心して自己発揮しながら一緒に遊ぶことを楽しんでいた。
- ・自然がたくさんある環境での交流だからこそ、環境を活かして遊びを進めることができた。多様な遊びが創りだせる環境の場所を選ぶことも大事な環境構成である。
- ・一緒に遊ぶことでグループの意識が高まり、結果的に交流が深まることにつながった。